

二中だより

平成23年3月7日発行
 新座市立第二中学校長 森田 和憲
 校 訓 まごころ
 学校教育目標 明朗 向上 自主・自立
 《40周年テーマ 伝統と誇りのある学校》

平成22年度の学校評価結果の状況をお知らせします。学校といたしましては、これを元に次年度の教育活動の改善を図ってまいります。

※ 表の見方

- 「自己評価」は、第二中学校職員の自己評価です。
- 「学校関係者評価」は、校長が委嘱した7名の委員(学識経験者、高校教頭、町内会長、青少年育成推進員、幼稚園長、主任児童委員、保護者代表)による評価です。
- 評価は、A(かなり高いレベルでできている。)、B(概ね規準に達している。)、C(規準には達していない。BとCの間の評価。)、D(ほとんどできていない。)の4段階です。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価委員からの主なご意見
1	学校は、学校教育目標達成に向けて、組織的に取り組んでいる。	B	・今年度は「伝統と誇りある学校」が意識され、良い特色を伸ばすことができた。 ・学校目標やスローガンを大きく掲示し、生徒にさらに意識できるようにしていく。	A	・創立40周年(伝統と誇りある学校の創造)のテーマの通り、日頃の授業や体育祭・合唱祭等の学校行事、部活動の成果に先生方と生徒達が一丸となった成果が見られた。
2	教職員は、PDCAサイクルのもと学級経営や教科経営・分掌経営にあたっている。	B	・自己評価シートは意識されているが日常的に振り返りながら、学年・学級経営、教科経営、校務分掌を保っていくことが必要である。	A	・教職員が目標を持ち、授業・部活動に熱心に取り組んでいる。管理職の支援・助言のもと、取り組み後の評価、改善の時間を確保し、次年度の経営に生かしてほしい。
3	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し迅速に対応できる体制を整えている。	B	・迅速な対応がなされていたが、他学年の対応が見えずらく、学年毎の対応になる傾向がある。	A	・マニュアルは整備され、不審者への対応は迅速になされている。今後も不定期に、状況に応じた訓練を実施し管理意識の向上を図り組織的に取り組んでほしい。
4	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	B	・清掃時の着替え、清掃後の見届けなど、点検カード等を利用して徹底する必要がある。 ・教室の掲示を共通した方針に基づいて実施するようにする。	A	・廊下・水道周辺がきちんと清掃され、環境美化への学校全体での取り組みがみえる。生徒の学習成果などの掲示物が素晴らしい。さらに環境美化への意識づけを図りたい。

評価項目「基礎学力の徹底」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価委員からの主なご意見
5	児童生徒は、落ち着いた状況の中で、学習内容を理解しようとしている。	B	・落ち着いた授業を受けられるクラスが多いが、自分から積極的に考え、発表できる生徒が少ない。 一人一人が意欲を持って取り組める授業を工夫していきたい。 ・学習に関する掲示物などの環境づくりを行う。	A	・全体的に生徒は落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいるが、教師の質問に対する反応が少ないように思う。
6	児童生徒は、「文章を書く力」を高めたいという教職員の指導の結果、目的や内容に応じて文章を書くことができる。	B	・行事や講演会の感想や反省を通して、書く力がついてきている。生活記録ノートの習慣化を図ることも有効である。また、一問一答形式の発問だけでなく、意見をまとめたり、発表することができる授業展開の工夫をするなど、全教育活動を通じて文章を書く指導を行っていく。	B	・言語活動の充実が言われている。国語だけでなく、全教科・全領域を通して、書く機会を増やし、書くことが楽しくなる、自己表現力を育む指導を重ねる必要がある。
7	教職員は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・「学力向上の日」を設けたことは成果だが、低位の生徒への手立てを計画的に行っていく必要がある。 ・言語活動の重視などの視点を全教職員が意識できるよう、分かりやすいポイントを示していく必要がある。	B	・学校として、わかる授業の工夫改善に取り組み、生徒の学力向上に努めていることが伺える。大型テレビなど教育機器の活用や補習授業等への取り組みなど、さらに学習意欲を高め、個々へのきめ細かい指導が望まれる。
8	学校は、学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	B	・全ての教室に『授業七ヶ条』を示すことができたのは良かった。日常化して意識を高めていくとともに、チェックする機会を設ける。また、やりきれない教師、クラスがあるので、統一した方式(あいさつの仕方など)を1年から徹底させる。	B	・全校的に「二中授業七ヶ条」を掲げ、授業規律が定着している。保護者・生徒のアンケートから「家庭学習」の評価が低い。保護者の協力を得ながら、家庭学習の習慣化を図りたい。
9	学校は、児童生徒が英会話に親しむことができるよう、国際化教育特区としての「英会話の時間」を推進している。	B	・英会話の時間で意欲的に取り組めていない現状が見受けられる。英会話の時間を他の教員がサポートしていくことが必要である。また、英会話の時間の内容を通信や掲示を利用してアナウンスをする努力をする。また弁論発表なども効果的に取り入れたい。	B	・国際性＝語学力ではなく、違う文化に対応できる能力を英会話から学んで欲しい。様々な指導方法の工夫がなされているが、学年、個人によって英会話学習への意欲に差が見られる。直接、外国人(生徒)との交流ができれば、もっと興味がわくと思う。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価委員からの主なご意見
10	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。	B	・進んであいさつのできる生徒もいるが差が見られる。日常化するため、教師からあいさつをしていく。 ・相手に対し、良い印象を与えるあいさつのあり方について改めて指導する必要がある。	B	・校内での挨拶は、気持ちよく出来ているが、地域での声かけには反応が少ない。顔を見て戸惑う子供もいるが、こちらから声をかけると挨拶してくれる。教師から声かけをし、家庭、地域でも働きかけるようにしてほしい。
11	児童生徒は、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができる。	C	・できる生徒は増えているが、差が見られる。教師が許してしまっている面がある。教師が自ら言葉遣いに気をつけるとともに、その場での指導が必要である。	B	・子供達は臨機応変に言葉を使い分けている様であるが、親、先生方に対しての話し方が気になる。「親しき仲にも礼儀あり」、時と場に応じた言葉遣いを教師が手本となり、家庭と連携しながら繰り返し指導して欲しい。
12	児童生徒は、いじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送っている。	B	・自己中心的な言動、人間関係のトラブルが多くある。道徳教育、人間関係づくりのスキルなどの指導を行っていく必要がある。また、問題を生徒に投げかけ、解決していくようにする。	B	・いじめの調査を定期的実施し、早期発見・早期対応に努めているが、いじめ等で不登校になってしまった生徒への対応が遅いように思う。先生方は、子供や親の言葉に耳を傾け、考え方や外見、自分と違う個性を認め合う教育を進めてほしい。また、今後とも小学校との連携を深め、情報収集と対応に、きめ細かく気を配って欲しい。
13	教職員は、自ら手本となるなど、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	B	・生徒の手本となるよう、机上整理、服装、言葉遣い、清掃への取り組み姿勢を見せるようにする。	B	・あいさつ運動等、参加している保護者から、先生の服装について問われた。また、パトロール中の姿も近隣の方はチェックしている。先生方自ら、服装・言葉づかいなど、規範意識をもって生徒の指導にあたってほしい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価委員からの主なご意見
14	児童生徒は、体力向上に向け、体育や部活動・外遊びに意欲的に取り組んでいる。	B	・自己中心的な言動、人間関係のトラブルが多くある。道徳教育、人間関係づくりのスキルなどの指導を行っていく必要がある。また、問題を生徒に投げかけ、解決していくようにする。	A	・先生方の熱心な指導により、部活動が盛んで、体力向上につながっている。各大会での素晴らしい活躍は次年度につなげてほしい。一方で、運動に対する二極化現象も見られる。全ての生徒に運動の楽しさを味あわせるように工夫して欲しい。
15	学校は、栄養バランスのとれた規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	B	・生徒の手本となるよう、机上整理、服装、言葉遣い、清掃への取り組み姿勢を見せるようにする。	B	・「早寝・早起き・朝ごはん」。特に、朝ごはんの大切さの指導の徹底を。食に対する、生徒・保護者の意識向上に取り組み、学校から家庭へも大切さを伝え、考えさせて朝食・睡眠などの生活リズムを定着させる働きかけを行ってほしい。栄養教室など、保護者と連携して行うことも有効。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価委員からの主なご意見
16	教職員は、PTA活動や地域活動に協力している。	B	・PTAと協力し、生徒・保護者・教職員が一体となった緑化活動などを始め、連携協力が良く出来ている。これからもさらに地域活動に自ら進んで参加していくことが必要である。	B	・野火止クリーンキャンペーンがスタートし、生徒、地域、PTAが携わる活動が増えた。先生方に大いに地域に目を向けてもらい地域・保護者との交流を深めるとともに、その輪を広げる努力をしてほしい。
17	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供している。	A	・コンピュータ指導員の活躍により、更新が常に行われていて良い情報提供ができている。任せきりになっているので職員にもホームページ担当者を置くべきである。	A	・学校だより等で学校教育活動が家庭・地域に伝わっている。ホームページでも、タイムリーな「2中NEWS」が拝見でき、子どもの様子がよくわかる。細かな学校行事など、パスワードを入れて閲覧できるようにすれば、セキュリティも上がるのではないか。
18	学校は、保護者や地域と連携し不審者対策のパトロールや声かけ運動などを計画を立てて定期的実施している。	A	・校区の見回りができ、不審者対策として有効であった。しかし、一部の職員に負担が偏っているため、全職員での対応をしていく必要がある。	A	・不審者対策等に東奔西走している職員の姿をよく見かけました。保護者や地域に情報発信し、学校・保護者・地域が協力して、子どもたちを守っていく活動に取り組んでほしい。PTA、地域の人達は、学校に協力するスタンスでいる。何かある時には、協力を求めてほしい。